バルセロナ目指す健脚を披露

峰浜村（旧沢目村、塙川村を合体）

昨年もこの会報の「ひと」欄で紹介した自転車の鈴木裕美子（新制31期）選手は、峰浜村岩子出身。その鈴木選手が五月の国際サイクルロードレースで、見事に日本の第一人者の貫禄を示した。

このレースは東京、名古屋、大阪を転戦して総合得点を争うものだが、第一戦の東京大会は日比谷シティ前をスタートして大井埠頭を周回する六〇・五七キロのコース。外国の一流選手十六名を含む四二名が参加した。レースは集団のまま終盤に入り、残り五〇メートルを団子状態でゴールになだれ込む展開になり、一位のタッペル（オランダ）選手にわずか百分の九秒及ばなかったものの、日本選手としては各大会を通じて日本人過去最高の二位でゴールを駆け抜けた。

鈴木選手は名古屋、大阪大会でも健闘。三つのレースを合わせたポイント制で争われる総合順位は、東京大会優勝のタッペル選手を抜いて堂々の四位となった。一位エイコフ（アメリカ）、二位メイフィールド（アメリカ）、三位ホッジ（イギリス）と上位三人は外国勢。ホッジ選手との差はわずか三ポイント。総合順位の女子日本勢の過去最高は七位で、鈴木選手はこの記録も大きく塗り替えた。

三〇歳とベテランの域に入った彼女だが、バルセロナへの夢に向かってまだまだ果敢な挑戦は続けられている。

峰浜ふるさと会　会長・富岳智猛氏
事務局・峰浜村役場
0185－76－2111

東京の一角にふるさとが出現

山本町（旧下岩川村、金岡村、森岳村を合体）

すでに恒例となった東京山本会は、昨年十一月浅草の台東区民会館で第4回総会が開催された。町からの出席者を含め約二八〇名の参加で、一年ぶりそしてそれ以上の再会を楽しむ声が会場一杯にみなぎりあふれた。会場には、秋田魁新聞や北羽新報の取材記者の顔も見られ、総会及び懇親会の模様は「きりたんぽ囲み懇談、踊りも披露、盛り上がる」と、写真入りで大きく報道された。

総会では、①会員相互の親睦と会員拡大、②山本町への情報提供、③ふるさとへの桜の植林、など六項目の事業計画が決定された。その後お楽しみの懇親会に移り、郷土料理キリタンポを味わいながら、金岡・羽立の勇壮な「ささら」、じゅんさい音頭などのアトラクションに、だれもがふるさとを満喫した。さらに、懐かしい恩師を囲む輪もあちこちにできて、子供時代に帰ってはしゃぐ姿も印象的であった。

なお、東京山本会第5回総会は、平成三年十月二十日（日）、東京浅草・台東区民会館で開催の予定である。

東京山本会　会長・鈴木多助氏
幹事長・板倉富紘氏
事務局・袴田事務所
03－3609－8584

青梅マラソンのもう一つの顔――あきたこまち

二ツ井町（旧二ツ井町、富根村、種梅村、荷上場村を合体、響村を編入）

号砲が鳴ってすでに数分、スタートラインを駆け抜けていく市民ランナーはまだまだ続く。毎年国内外のトップランナーを含む一万五千名以上のランナーが参加する、市民ランナー憧れのマラソン大会である。その日本一の規模を誇る青梅報知マラソンは今年25回の記念大会。わが二ツ井町からも10キロの部、30キロの部に男女合わせて11名が参加し、全員見事に完走した。

しかし、二ツ井町の青梅マラソン参加はランナーだけではない。東京二ツ井会の協力もあって、今年もあきたこまちのおにぎり二万五千個余りが特別参加。おむすびの特別参加はすでに

五回目とあって、ランナーにもすっかりおなじみ。アッというまの品切れになり、町産ブランド米もいよいよこの大会のもう一つの顔になりつつある模様。

東京二ツ井会　会長・吉田　裕氏
東京事務局・桂田氏
0424－84－0151

ブナの森で心を豊かに

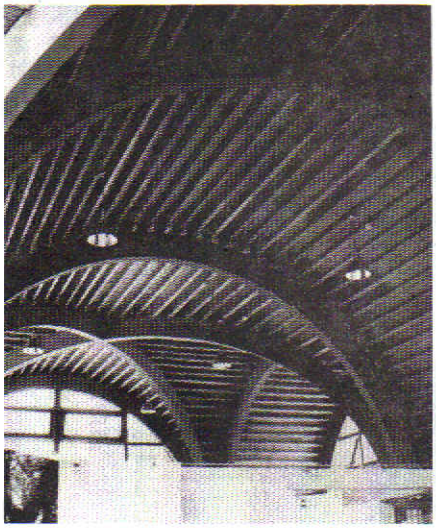
八森町（旧八森村、岩館村を合体）

最近のレジャーは、観光や消費型から心の豊かさや充実を求める方向へと変化している。昨年、わが町に県が建設した森林科学館（八森ぶなっこランド）はその要求にぴったりの施設で、今各方面の注目を集めている。

丸いドーム型の屋根を持つ建物はすべて秋田杉で作られており、天井は組み合わされた太い梁のアーチが力強く、その美しさに訪れる人々はしばし感嘆の吐息をもらす。

内部には世界一と言われる白神ブナ原生林の様子が手に取るようにわかるジオラマ（立体模型）を始め、パネル写真、ブナで作られる製品などが豊富に展示されている。ブナの森がもたらす美しい自然や大切な働き、豊かな恵み、ブナと人との関わりの中に生まれた独特の文化についての情報ができる限り盛り込まれて、森を育て自然を守ろうとする意識を高揚するのに格好の施設となっている。

建物の周囲には、炭焼き釜、キノコの森、生産の森などが整備されていて、希望者はそこで体験を通した学習が行えるようになっている。また、清流真瀬川の回りの遊歩道、あずま屋、真瀬川を渡る橋も完成しており、四季折々の変化を楽しみながらの散策も健康的である。



東京八森会　会長・加賀谷光丸氏
事務局・八森町役場
0185－77－2111

房住山の山開き――好評な自然なまの登山道

琴丘町（旧鹿渡町、上岩川村を合体）

六月二日、恒例の房住山山開きが町内外から八十人の参加で行われた。房住山は古くから修験の霊場として知られ、坂上田村麻呂と長面三兄弟の攻防などを記した「房住山古伝記」の舞台として地名伝説も豊富である。江戸時代には三十三観音も安置され、信仰の山としても有名なほか、新秋田観光三十景にも選ばれている。昨年から滝の上登山口（Aコース）、小新沢林道登山口（Bコース）、二ツ井側登山口（Cコース）の三つが採用されている。

この時期は山菜も豊富で、登山道のすぐ近くに竹の子、ミズ、フキなどたくさんある。それぞれの登山口から登った参加者は、今年も元気に頂上に集合、そこで安全祈願祭を行った。天気は薄曇りながら、頂上からの視界は三六〇度。森吉山、太平山、大潟村、日本海が一望できて、参加者は登山の疲れも忘れ見とれていた。下山後の昼食は地元小新沢自治会の山菜汁のサービスもある、新しくできた滝の上林間広場。また、臨時の郵便局も設置され記念品などが販売された。

「あまり手を加えず自然のままなところがよい。来年はCコースに挑戦したい」「観音像に歴史的魅力が感じられ、深山の雰囲気がいい」などと参加者の感想はおおむね好評だった。